

7.

一三三 大島本島守備隊主戰隊手詳報

明治三〇年一一二二
大島本島守備隊
(奄美方面)

②

球三十四口警第三號

六五作經由第六號

大島本島守備隊空襲詳報提出件報告

昭和三十年一月二十五日

球第二十四口部

球第一六一六部隊長殿

首題ノ件別冊ノ通リ提出ス

6 FcA



中島陸



大島本島守備隊空襲詳報

大島本島守備隊

一月二十二日

曇

日出七時五十分
西ノ風 五米

〔戦闘前ニ於ケル彼我ノ形勢ノ概要〕

守備部隊ハ一月二十一日敵機動部隊近接シ空襲ノ虞ヒアリ
タルヲ以テ丙號戰備ニ就クヘキ軍命令ヲ受領シ直チニ
敵ノ空襲ニ對シ監視警戒ヲ嚴ニシ且一月二十二日〇六四九
沖繩本島空襲警報發令ヲ受領シ敵機撃墜竝ニ退
避準備ヲ完了シ戰備作業ヲ續行シツヽアリ

〇八五五大島海軍防備隊ヨリ曾津高崎基兵一七〇度

九〇料ヨリ敵機ヲキモノ侵入セリトノ通報ヲ受領ス

守備隊長ハ〇八五五獨斷ヲ以テ大喜地區ニ對シ空襲警報ヲ

發令ス

各隊ハ計畫ニ基キ對空監視ヲ嚴ニスルト共ニ對空射撃準備ヲ完了ス

1982 (8) 2

二 戦闘ニ影響ヲ及シタル氣象地形及住居ノ状況
天氣曇リ雲量多ク雲高一千五百米ニシテ北西ノ風五米ニシテ
飛行機、發見及識別ハ一千五百米以上ハ困難ナリ
三 彼我ノ兵力其他

一 敵ノ兵力

第一次空襲

自一〇九二〇

敵艦載機小型

五機

第二次空襲

自一〇五三六

敵艦載機小型

七機

主トシテ船舶ニ對シ爆彈投下及機銃掃射ヲ行フ

二 敵ノ戦法

敵ハ高度千米以下ニシテ急降下ニヨリ爆彈投下並ニ

機銃掃射ヲ實施セリ

三 敵ノ使用セル兵器

小型機ニヨル小型爆彈並燒夷彈投下及機關銃掃

射ナリ

四 我カ使用セル兵器

三八式野砲(高射設備)

四 各時期ニ於ケル戦事經過關係部隊、動作及連絡施設状態
敵機侵入状況別紙要圖ノ如シ

第一次空襲

〇九二〇發利北西ヨリ敵艦載機小型五機名瀬北方ヨリ

二編隊ニ分レ大島本島ニ侵入ス

〇九二六一隊(三機)ハ名瀬上空ニ來襲シ名瀬港外ニ

碰礁中、丹後丸、極洋丸及名瀬港碇泊中、機帆船

ニ對シ爆彈六發ト機銃掃射ヲナス(被害、戦死一機帆

船船長ニテ軍属)外ナシ)

〇九三三一隊(三機)ハ小湊沖、機帆船一隻ニ對シ爆彈一發

機銃掃射ヲナシ南、下〇九三五伊須灣沖ヲ航行中、機

帆船一隻ニ爆彈一發機銃掃射ヲナシ、機帆船一隻東京上空

ヲ南下ス一〇五再ヒ大島海峡東口ヲ北上皆津崎沖ヲ航
行中ノ機帆船「キク丸」ニ爆撃ヲ加ヘ上昇中皆津崎砲台
ハ高射代用野砲ヲ以テ射撃、命中セザリシモ敵機ハ東
北ニ遁走セリ(被害負傷者二名(海軍機帆船乗組員他ナシ))
一隊(三機)ハ〇九四焼肉上空ニ來襲シ旋迴航行中ノ機帆船ニ
西爆撃シ雲上ヲ旋迴シ大島海峡西口上空ニ來襲シ大島海
峡西口航行中ノ機帆船ニ爆撃シ〇九五八北西ニ脱去ス

第二次空襲

一五三六 大島海峡西口曾津高崎南方ヨリ敵艦載機小
型七機 大島本島ニ侵入ス
一五四七 名音上空ヲ通過一五四七名瀬上空ヲ通過東ニ進行
一五五七 笠利上空ヲ通過南西ヘ進ミ一五五九 赤尾木上空ニ
來襲シ爆撃機銃掃射ヲ行ヒ南ヘ進行シ一六〇三 皆津崎
上空ヲ南下一六〇八 請島東方海上航行中ノ機帆船ニ爆撃シ

ヲ爆轟南方ニ脱去ス

赤尾木ハ被害ナシ 請島東方海上ノ機帆船ニ隻ニ爆彈命中

ニ隻共炎上沈没ス

五、戦後ニ於ケル彼我形勢ノ概要

守備隊ハ益々整齊ヲ嚴ニスルト共ニ戦備補強ニ勉ム

六、地方住民ノ状況

(一) 地方住民ハ在郷軍人及警防團ガ警戒配備ニ就キ万全ヲ期シ一般民ハ各自家ヲ空ケ谷地ノ洞窟内ニ待避セリ

七、齟齬過失其他將來ノ参考トナルヘキ事項

(一) 敵機群飛來ノ位置ハ我對空射撃ノ有効位置ニアラサリシ為一機ヲモ衷墜シ得ス

(二) 陸軍ニ於テ被害無キハ連絡ノ通報ト洞窟式待避設備アルニ依ルモノト思考ス

(三) 海軍ノ電波警戒機並民防空監視機ノ敵機捕捉発見

及連絡迅速ハ部隊戦ニ寄與スル處大ナリ
八本日ノ射耗彈藥尤ノ如シ
三八式野砲九四式榴彈
一發

第一次空襲

200000



(1)

第三次空襲

五

200100



(P)